

3歳児

ちょっと まわりが みえてきて

1 発達の特徴

- ・ 基本的な運動機能が伸び、それに伴い、食事、排泄、衣類の着脱などもほぼ自立できるようになる。
- ・ 話し言葉の基礎ができて、盛んに質問するなど知的興味や関心が高まる。
- ・ 自我がよりはっきりしてくるとともに、友達との関わりが多くなるが、実際には、同じ遊びをそれぞれが楽しんでいる平行遊びであることが多い。
- ・ 大人の行動や日常生活において経験したことをごっこ遊びに取り入れたり、象徴機能や観察力を発揮して、遊びの内容に発展性が見られるようになっていたりする。
- ・ 予想や意図、期待をもって行動できるようになる。

【運動機能の高まり】

この時期子どもは、基礎的な運動能力が育ち、歩く、走る、跳ぶ、押す、引っ張る、投げる、転がる、ぶらさがる、またぐ、蹴るなどの基本的な動作が、一通りできるようになります。様々な動作や運動を十分に経験することにより、自分の体の動きをコントロールしたり、自らの身体感覚を高めたりしていきます。

【基本的な生活習慣の形成】

運動能力の発達に伴い、食事、排泄、衣類の着脱など基本的な生活習慣がある程度自立できるようになってきます。例えば、不完全ながらも箸を使って食べようとしたり、排泄や衣類の着脱などを自分からしようとしたりします。

基本的な生活習慣がある程度自立することにより、子どもの心の中には、「何でも自分でできる」という意識が育ち、保育者の手助けを拒むことが多くなります。

【言葉の発達】

子どもが理解する語彙数が急激に増加し、日常生活での言葉のやり取りが不自由なくできるようになります。「おはよう」「ありがとう」などの人と関わる挨拶の言葉を自分から使うようになり、言葉を交わす心地よさを体験していきます。また、言葉の獲得を通し、知的興味や関心が高まり、「なぜ」「どうして」といった質問を盛んにするようになります。このような質問ややり取りを通して、言葉による表現がますます豊かになってきます。

【友達との関わり】

この時期の遊びの多くは場を共有しながらそれぞれが独立して遊ぶ、いわゆる平行遊びですが、平行して遊びながら他の子どもの遊びを模倣したり、遊具を仲立ちして子ども同士で関わったりする姿もあります。時には遊具の取り合いからけんかになることがありますが、徐々に友達と分け合ったり、順番に使ったりするなど、決まりを守ることを覚え始めます。

【ごっこ遊びと社会性の発達】

自分のことを「わたし」「ぼく」と言うようになるなど自我が成長するにつれて、自分についての認識と同時に、家族、友達、先生などとの関係が分かり始めます。周囲への関心や注意力、観察力が伸びて、気付いたことを言葉で言ったり、遊びに取り入れたりしながら人との関わりを育んでいきます。

子どもは様々な遊具を手にして夢中になって遊んだり、イメージを広げながらごっこ遊びを楽しみますが、その中で、身の回りの大人の行動や日常の経験を取り入れて再現するようになります。

2 教育・保育の重点

- 身近な保育者に依存しつつ、伸び伸びと生活する楽しさを感じ取れるようにする。
- 身近な人やものに関わり、自分の思いを出して遊んだり、友達と触れ合う楽しさを感じたりできるようにする。
- 自分でできることの喜びや満足感を大切にしながら、基本的な生活習慣が身に付くようにする。

3 親育ち・子育て支援 保護者へ発信しましょう・・・子育て支援と家庭の教育力向上に向けて

- ☆ この時期はまだ言葉を通して考えることは難しく、行動を通して考えることが中心になります。「子どものしていることには何か意味がある」そんな思いをもって子どもと関わっていけるように伝えましょう！
 - ・ 経験を豊かにして、言葉の背景にあるイメージを豊かにすることがとても重要なのです。疑問を感じたり試したりできる環境が、好奇心いっぱいの3歳児の子どもの心を弾ませます。
- ☆ 何でもやろうと意欲いっぱいの3歳児です。どんな思いでどんなことをしようとしているのか丁寧に受け止めて援助しながら、自分でやろうとする気持ちを大切にしよう伝えましょう。
 - ・ 食事の時間、内容、態度、早寝早起きなど、生活リズムを家族みんなで整えるようにします。
 - ・ 衣服の着脱やうがい、手洗いなどの生活習慣は、保護者が一緒にやりながら繰り返し知らせるとともに、一人でできるようになるまでのプロセスを大切に受け止め、認めていく中で自信がもてるようにします。
 - ・ 衣服の着脱や排泄がスムーズにできるよう、着脱しやすい服やズボンやパンツなど、上げ下ろししやすいものを選びます。
- ☆ 疲労が訪れる夜の対応について助言しましょう。
 - ・ 年少組として初めて幼稚園・保育園・こども園などに入園する、また、0・1・2歳児クラスに比べて集団が大きくなる3歳児クラスに進級する4月は、親子ともに不安や疲れを感じるが多くなります。特に3歳児にとって疲労の訪れる夜の時間は、様々なことがスムーズにいかなくなります。慣れるまでのことと考えて、家事の進め方を工夫したり、家族に応援を求めたりして乗り切っていけるよう、保育者も保護者に寄り添い応援していきましょう。
- ☆ 夢中になって遊ぶ姿を大切にしましょう。
 - ・ 遊びに没頭するからこそ感じたり、考えたり、発見をしたりします。「おもしろい！やってみたい！」という意欲が育まれることが大切であることを伝えましょう。
- ☆ 友達との関わりの大切さを伝えましょう。
 - ・ 友達同士のけんかは、相手の存在に気付いていく大切な体験ととらえて、まずはゆったりとした気持ちで受け止めましょう。

4 発達に必要な経験の内容

健康

- 様々な遊びに興味をもち保育者や友達と取り組む中で、体を動かす楽しさを感じる。
- 身の回りの清潔や衣服の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分からしようとする。
- 自分で手洗いや鼻をかむなどして清潔にすることの気持ちよさを知る。
- 楽しい雰囲気の中で様々な食べ物を進んで食べようとする。
- 安全に気を付けて遊具や用具を使ったり危険な場所や遊び方に気付いたりする。

保育者の関わりのポイント

- ★ 子どもの動きを見ながら1日の流れを工夫し、動きたい欲求を満たすような場を設定していく。
- ★ 土・砂・水などと十分に触れたり、様々な身体の動きが引き出せるように固定遊具や園外保育を活用したりするなど、戸外での遊びを充実する。
- ★ 一人一人の興味や関心に合わせて、遊びに使うものが自由に使えるよう、分かりやすい表示の工夫をしたり、遊具や用具の種類や数量に配慮したりする。
- ★ 身の回りの始末や片付けなど、何でも自分でやってみたい子どもの気持ちを大切に、始末のしやすい場や空間などを用意する。また、覚えやすい自分の目印や手順、方法を具体的に知らせ、「自分でやった」という実感がもてるようにする。
- ★ 子どものペースに合わせてゆったりできる場や空間を用意する。

人間関係

- 自分なりの動きをしながらクラスの人などと一緒に過ごす楽しさを感じる。
- 友達と一緒に遊ぶ中で、友達がしていることや動きや言葉に関心をもち、相手にも様々な思いがあることを感じる。
- 遊具や用具などを貸したり借りたり、順番を待ったり交代したりして遊ぶ。
- 園生活に必要なことを自分からしたり、周りの子どもの動きを見て気付いたことを自分でしたりしようとする。
- 困ったことや分からないことなど、動きや簡単な言葉で保育者や友達に伝えようとする。
- みんなと遊ぶ中で、してよいことやしてはいけないことに気付く。

保育者の関わりのポイント

- 入園・進級して生活の環境が大きく変化した時、その当初は緊張や不安が大きい。安心して好きな遊びができるように室内外の環境を整える。また、一人一人の子どもの思いを丁寧に温かく受け止め、小さなサインも見逃さないようにし、一緒に遊びながら保育者への信頼感が育まれるようにする。
- 友達とのやり取りの中で、自分の思い通りにいかないことに直面していくことが増えてくるが、一人一人の思いに共感し、受け止めるとともに友達の気持ちに気付くよう援助していく。
- 園生活に必要な決まりは、焦らず、保育者との信頼関係や友達への思いを投げどころとしながら、日々の生活の中で必要感を伴って、身に付くようにしていく。



自分で作ったカタツムリを使って
友達とのやり取りを楽しむ

環 境

- 飼育物や栽培物などに関心を持ち、触れたり関わったりすることを喜ぶ。
- 身近な遊具や用具に関心を持ち、自分たちで自由に使ったり遊んだり感触を楽しんだりする。
- 身近な自然物や様々な素材、材料などに親しみ、色や形や大きさなどの違いに気付き、集めたり並べたりして楽しむ。
- 自分のもの、他人のもの、共同の遊具などの区別が分かり、大切にしようとする。
- 園内の様々な表示に関心をもつ。

保育者の関わりのポイント

- ▲ 抱いたり触ったりできる生き物や、水やりをしたり食べたりできる野菜などを目に付きやすい場所に置き、保育者と一緒に世話をしたりしながら、親しみがもてるようにする。また、事前にアレルギーの有無を保護者に確認しておく。
- ▲ 遊具や素材に十分に関わって遊べる場や時間、数量などに配慮する。
- ▲ 片付けやすい場や分かりやすい表示などを工夫し、形や大きさなどを意識して片付けられるようにする。
- ▲ 水や砂、土や泥など自然の素材に十分関わって遊べるよう環境を工夫する。また、保育者は、風や雨、陽の光、花の香りなど自然界の事物に感覚を通して触れることを大切にし、子どもに気付かせたり共感し合ったりできるようにする。
- ▲ 保育者がものに愛着を持ち、大切に扱う姿を通して、ものを大切に丁寧に扱う心を育てるようにする。

3歳児

言 葉

- 親しみをもって保育者の話を聞いたり、困ったことやして欲しいことを言葉で伝えたりする。
- みんなと一緒に保育者の話を聞くことを楽しむ。
- 安心して自分から保育者や友達に話をしようとする。
- 身近な生活の中で必要な言葉の意味を理解し、自分も使ってみる。
- 挨拶をする気持ちよさを感じる。
- 絵本や紙芝居を繰り返し見たり聞いたりすることを楽しむ。

保育者の関わりのポイント

- ◆ 新入児には特に、抱いたり手をつないだりするスキンシップを通して保育者に安心感をもてるようにし、して欲しいことを言ったり名前を呼ばれることを喜んだりできるようにしていく。
- ◆ 表情や動作で伝えようとしている気持ちを丁寧に受け止め、受容する。保育者の発言から言葉による表現の仕方を学んでいくことを踏まえ、的確に言葉で返していくようにする。
- ◆ 子どもの生活に沿いながら、言葉の意味や使い方をその都度、具体的に分かるように伝えていくようにする。
- ◆ 絵本や物語の世界に浸れるよう、ゆったりとした時間の確保や場の工夫をし、繰り返し楽しめるよう、子ども一人一人の気持ちを大切に受け止めていく。

表 現

- 様々な遊具や素材に自分から見たり触ったりし、興味をもって遊ぶ。
- 身近な自然に触れたり、様々なできごとを体験したり、感じたことや考えたこと、イメージしたことを言葉や動き、絵画、音楽などで表現することを楽しむ。
- 自分の発見や感動を保育者や友達に伝える喜びや楽しさを味わう。
- 様々な素材を使って遊ぶことを楽しむ。
- 見たものや感じたものになりきって遊んだり、友達とストーリーに沿って動くことを楽しんだりする。

保育者の関わりのポイント

- 美しい物や不思議なものなどと豊かな出会いができるよう、自然や芸術、文化との出会いを大切にするとともに、子どもの小さな表現も見逃さず温かく受け止め、認めたり共感したりしていく。
- 保育者も一緒に歌を歌ったり、音楽に合わせてリズムカルに動いたり楽器を鳴らしたりし、音楽の楽しさをいろいろな方法で表現し、楽しむ。
- 見立てたりなりきって遊んだりする楽しさを十分味わえるように素材や衣装などの補助遊具を用意し、保育者も仲間になって楽しんだり使ってみせたりする。
- 木の実や落ち葉などの自然物や小さく切った紙や扱いやすい大きさの空き箱など、身近な素材を自由に取り出して作って遊べる環境を整える。
- クレヨンや絵の具、油性インクなどで絵を描いたり、紙を切って貼ったりすることなどを繰り返し十分に楽しめるよう、時間や場、数量を確保する。

5 実践事例(13)

3歳児 7月

うまく入るかな? そーっと、そーっと

興味をもったことに夢中になって遊ぶ

夏の日、園庭の一隅に水遊びを楽しめるよう、ゲームボックスの上にはいろいろな容器を用意する。登園したS児はすぐにその場所に行き、広口のパックの容器に水を入れ、パックの角を使いこぼさないようにペットボトルに水を移し始める。ペットボトルがいっぱいになると満足そうに、「あー疲れた」と言う。次にジョウゴがあることに気付きもう一本のペットボトルに水を移し始める。今度は「これは簡単」と言って近くにいた保育者や友達を見る。しばらくジョウゴを使って遊んでいたが「やっぱりこっちが面白い」と言って広口のパック容器を使ってペットボトルに水を移す遊びを続ける。さらに、近くにあったざるを見つけるとざるに水を入れ始める。水がざるの目を通っていく様子をじっと見て「こぼれちゃう」と言い、そばにあったざると同じ形のボールを重ねて水を流す。ざるを通った水が、下のボールにたまっているのを見て、「あれ、お水が下のに入ってる?」と驚いたように言う。

★健康 ●人間関係 ▲環境 ◆言葉 ■表現

- ▲水は流れる、溢れる、こぼれるなど水の性質に気付く。
- ▲ざるは水を通してしまうこと、下にボールを重ねると水が流れないで溜まることを発見する。
- ▲容器の形や大きさを分別する。
- ▲大きい口の容器から小さい口の容器に水をこぼさないように移すために、容器を傾ける角度や力の入れ加減を繰り返し試したり工夫したりする。

- ★水の感触を楽しむ。
- ★集中して遊ぶ。
- ★開放感を味わう。

- 気付きや発見を保育者や友達に伝えたい。

- ◆自分が気付いたことを、保育者や友達に話す。



- ▲いろいろな容器に興味・関心をもつ。(丸い口、四角い口、ジョウゴなど)
- ▲いろいろな容器を使いながら、簡単に入れられる容器や道具があることを知る。

👉 保育者の関わりのポイント

☆ 自分なりの面白さを見つけ少し難しいことにも挑戦し、乗り越えていこうとする子どもの姿を見守るとともに、子どもの気付きや発見を認めたり共感したりする。

- ・ 手先の巧緻性が身に付いてきて、いろいろな用具や容器を扱う面白さを感じるようになってきた3歳児。
- ・ 水の感触を楽しみながら開放感やいろいろな用具を使う楽しさを感じさせたいと考え、園庭に水遊びができる環境を用意した。
- ・ 容器に水を注ぎ入れることに面白さを感じたS児は、簡単に水を移せるジョウゴより、手元を揺らさず、力の入れ方や角度を加減しながら水を注ぎ入れなければならない、広口パックの角を使うことに面白味を感じ、水を移す遊びを繰り返した。
- ・ 幼児が自ら環境に関わり、自分なりのめあてをもって繰り返したり、試したりして集中して遊べる時間や場、物を保障し、認めたり、共感したりしていくことが、自分らしさの発揮につながっていく。

5 実践事例(14)

3歳児 10月

かくれて、かくれて・・・「みーつけた！」

友達と一緒にの楽しさ！！

「先生、かくれんぼしよう！」とT児。その声を聞きつけ「入れて」「入れて」とU児、V児、W児たちが次々に入ってくる。「もういいかい?」「まーだだよ!」のやり取りをしながら、鬼になったT児は目を手で覆うが指の隙間から覗いている。隠れるU児、V児、W児たちも鬼を見つけに来ないと思わず飛び出してしまふ。鬼に見つかる「あーあっ」とがっかりしたかと思うと、「〇〇ちゃんが先に見つかったよね」と友達を鬼にしようとしたり、逆に「僕が鬼だよ」と鬼になりたがったりするなど様々な姿を見せる。保育者が鬼を確かめたり、「今度は見つからないように隠れようね」と励ましたりすると少しずつルールを意識して遊びが継続する。「もういいかい」「まーだだよ」「みーつけた」など、リズムカルな言葉のやり取りをしながら友達と一緒に遊ぶことが楽しいT児たち。

★健康 ●人間関係 ▲環境 ◆言葉 ■表現

●見つからないように体を寄せ合ったり、頭を低くしたりしながら友達と一緒にいる楽しさや一緒にドキドキする面白さを感じる。

★戸外で走ったり隠れたりして体を動かすことを楽しむ。

▲自分なりに考えて、鬼から見えない場所や、隠れやすい所を探したりする。

◆鬼は、友達の声に耳を澄ましたり、声のする方向を探したりする。
◆「もういいかい?」「まーだだよ」「もういいよ」などの言葉のリズムを楽しんだり友達と声を揃えて言う楽しさを感じたりする。

●見つけたり隠れたりしながら相手を意識して動く面白さを感じる。



👉 保育者の関わりのポイント

☆ 保育者は、一人一人の思いや発見、表現を丁寧に受け止め、共感したり、時にはアイデアを出したりする関わりを通じて、自ら活動に取り組む意欲や自己を伸び伸びと発揮する力を育てていく。

- ・ 行動範囲の広がりとともに、自分の思いを伸び伸びと表しながら全身を使って遊ぶことを楽しんでいる3歳児。
- ・ 簡単なルールの鬼遊びやゲームなどに積極的に参加し、保育者や友達と一緒に生き生きと遊ぶ姿が見られる。
- ・ T児たちは繰り返し「かくれんぼ」をする中で、保育者や友達と一緒に動く楽しさや一体感、言葉のやり取りやリズムの面白さを感じている。どんな場所だったら上手に隠れられるか、園庭の環境を自分たちの視野に入れ、身を隠す場所を探したり、友達を見つけたりする楽しさも味わっている。

5 実践事例(15)

3歳児 2月

「ただいま～♪おかえり～♪」

イメージをふくらませながら自分の世界で遊ぶ

大きなダンボールで「みんなのおうち」を作り始めると、クレヨンで色を塗る子、好きな絵を描く子、「お花を付けよう！」と友達と保育者と一緒に紙、セロハンテープ、はさみなど自由に使いながら作る子。一人一人が想像を巡らせ、思い思いに作って飾る。おうちができ上がると、早速、ままごとが始まる。「会社に行ってくるよ！」「気を付けてね、行ってらっしゃーい」とお父さんお母さんになりきり遊ぶ子どもたち。

ある時は、3匹の子ぶたの絵本の世界が広がり、保育者がおおかみ役になってやって来ると「キャー！」と家に逃げ込むことも。

今までの経験や絵本の世界を遊びに取り入れ、イメージを膨らませて、保育者や友達と関わり、やり取りを楽しみながら夢中になって遊ぶ。

★健康 ●人間関係 ▲環境 ◆言葉 ■表現

▲家の中に、ままごとやおもちゃなど遊びに必要なものを取り入れて遊ぶ。紙や空き箱の形や材質に気付く

■「何色のお家にする？」「お花のおうち！」などそれぞれのイメージを出して、自由に描くことを楽しむ。

●みんなで一つの家に一緒に入り、触れ合うことを楽しむ。

●「ただいま～」「おかえり～」など言葉のかけ合いを喜び、繰り返しを楽しむ。

■家に模様や窓にカーテンを付けたり、役になりきったり、自分のイメージを伸び伸びと表現する。

▲料理をしたり食事をしたなど身近な生活経験を再現して楽しむ。

◆自分の思いやイメージを言葉で伝えたり、友達の話に耳を傾け、友達の真似をしたりして楽しむ。

■絵本「3匹の子ぶた」の子ぶたになりきり、友達と一緒に声をあげて家に逃げ込んだり、友達、おおかみ役の保育者とのやり取りを楽しんだりする。



👉 保育者の関わりのポイント

☆ 一人一人の子どもがクラスの友達の中で、自分なりのイメージを表現したり、保育者と一緒に様々な素材や用具を使う楽しさを感じたりすることにより、新たな世界が広がる経験ができるようにする。

- ・ 自分なりの動きをしながら友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようになってきたこの頃の3歳児。
- ・ 保育者と一緒に遊びに使う場やものを自分で作る面白さを感じ、張り切っているような用具や材料を使って自分なりのイメージを表現している。
- ・ 大きな段ボールを扱うにはまだまだ保育者の手助けが必要だが、花の模様を描いたり家の壁を塗ったり、自分なりのイメージを言葉や動きに出せることが本当に楽しそうである。
- ・ 保育者が準備した大きな段ボールの家が拠点となり、おうちごっこのイメージが膨らんだり、絵本の世界が広がったりしている。

6 必要な経験に向けての工夫及び教材・玩具など

興味をもったことに夢中になって遊べるように

- 入園当初は、不安な気持ちをほっとさせるような身近な小動物や、生き物を保育室に置く：メダカ、オタマジャクシ、キンギョ、カメ、アリ、ダンゴムシなど
- いろいろな形を組み合わせて見立てたり作ったりして遊ぶ：積み木、色紙、空箱など
- 身近な生活がテーマになっている話や絵本：「おんなじ おんなじ」「たんたんぼうや」「だれかしら」「そらはだかんぼ」「はけたよはけたよ」「きんぎょがにげた」「ゆうたはともだち」「たっちゃんのながぐつ」など
- 絵が多く、見ているだけで楽しめるもの：「はらぺこあおむし」「ごろにゃーん」「なにをたべてきたの？」など

伸び伸びと体を動かして遊ぶ楽しさを感じられるように

- 保育者と一緒に追いかっこや鬼ごっこを楽しむ：「むっくりくまさん」「おおかみさん、今、何時？」など
- 体を動かしながら歌えるような歌：「さんぽ」「ホ・ホ・ホ」「アブラハムの子」など
- 遊びながら歌える歌：「あぶくたった」「はないちもんめ」など

友達とのつながりの中で安心して遊びを楽しめるように

- わらべうたのような、ゆったりとした歌：「かごめ」「おせんべやけたかな」「ここはどうちゃんにんどころ」など
- 簡単な手遊び歌や動作をすることが楽しい歌：「ひげじいさん」「だしてひっこめて」「いとまき」など
- 友達と同じ物を持ったり身に付けたりして一緒にの楽しさを感じる：お面、バック、スカート、エプロン、バンダナ、マント（大きめの布）など
- 同じ言葉の言い回しの繰り返しや、内容の繰り返しを楽しめる本：「おおきなかぶ」「とりかえっこ」「でんしゃにのって」「びょーん」など
- 話の中に多少スリルがありながらも最後は楽しい雰囲気で行わる物語や、お話の中で自分が同化し、ごっこ遊びが楽しめる本：「三びきのやぎのがらがらどん」「三びきのこぶた」「赤ずきん」「おおかみと七ひきのこやぎ」「おだんごぼん」など

身近な自然に親しみを感じ、その中にひたりきって遊べるように

- 種、実をとって集めることを楽しめる植物や、色水作りなどの遊びの材料になる植物を子ども手の届くような場所に育てておく：ジュズダマ、ヨウシュヤマゴボウなど
- 夏の日の暑い日差しと日陰、冬の日の風の冷たさと陽だまりなど、季節を体感できるように働きかける：風通しのよい場所、霜柱探し、氷作りなど
- 見ていて面白い生き物を保育室に準備したり、園庭で集めたりする：ダンゴムシ、カタツムリ、ザリガニ、キンギョ、カメなど
- 保育者や友達と一緒に探したり、集めたりできるように、園庭に惜しみなくつめる草花を栽培しておく：シロツメクサ、タンポポ、マーガレット、アサガオなど
- たくさんの落ち葉を拾い集めたり、その中に埋もれて遊んだり、十分に自然と触れ合って遊べるようにする：イチョウ、サクラ、フジ、メタセコイアなど